

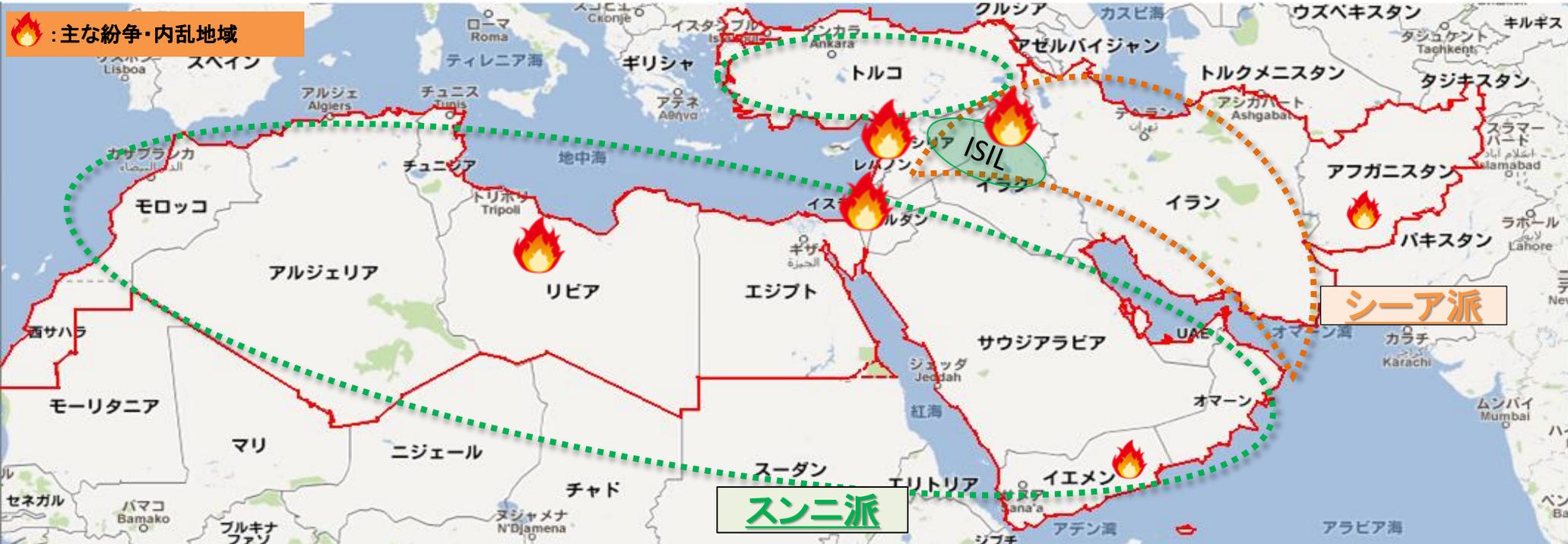
最近の中東情勢



平成27年4月22日
外務省中東アフリカ局審議官
岩井 文男

* 本資料・講演は個人の見解であり、外務省を代表するものではない。

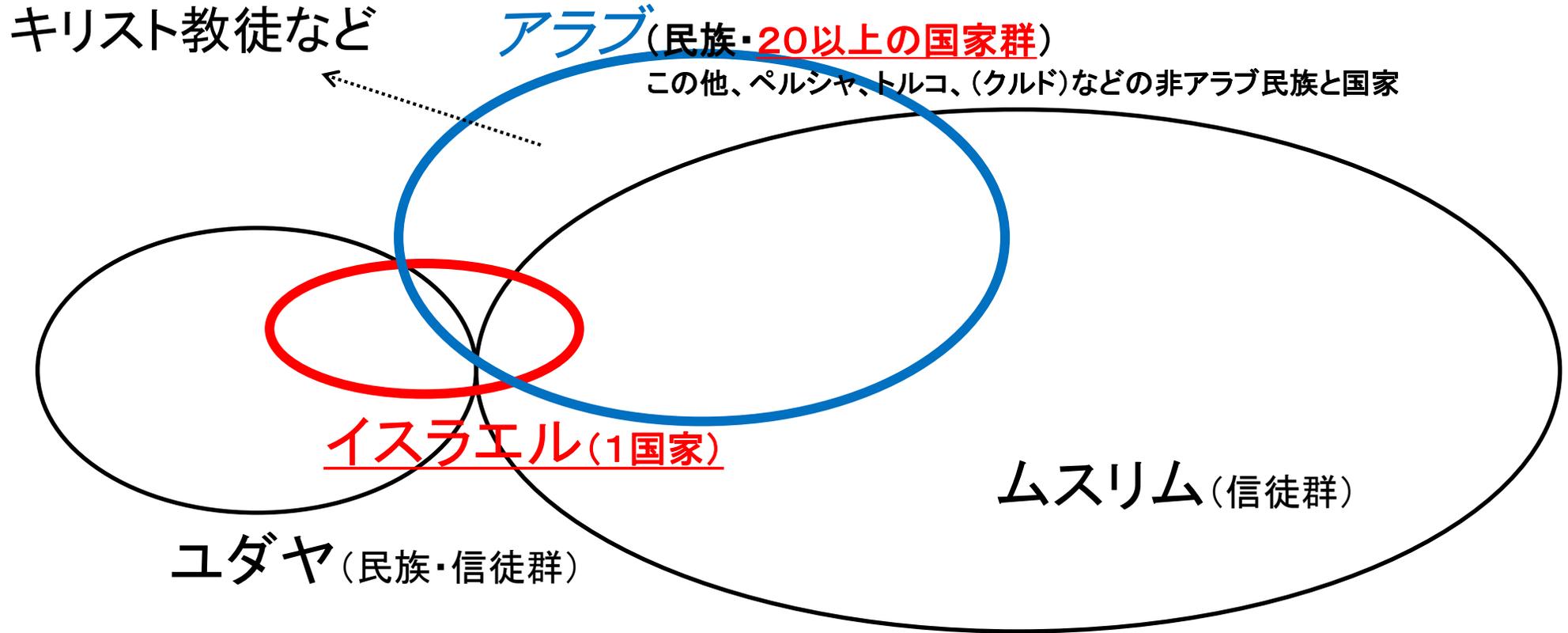
中東・北アフリカ地域



- 脆弱性：異なる宗教・宗派・民族の混在
- 重要性：マーケット・エネルギー源・物流

中東北アフリカにおける現実世界と精神世界の概観

集合関係から見た図式



ムスリム: 世界で15億~20億人。コーラン。

アラブ: 3.5億人...アラブ連盟加盟国などの国民で、アラビア語を母国語とする人々

ユダヤ: 1,500万人...イスラエル国+(ユダヤ人コミュニティ)のユダヤ教徒。旧約聖書

キリスト教: 世界で20億人を超える。新約聖書。

最近の情勢

➤ サウジアラビア： 新国王下で諸課題に取り組む

➤ イラン： 核と周辺国への関与

➤ イエメン： 情勢悪化

➤ ISIL等スンニ派過激組織の攻防：

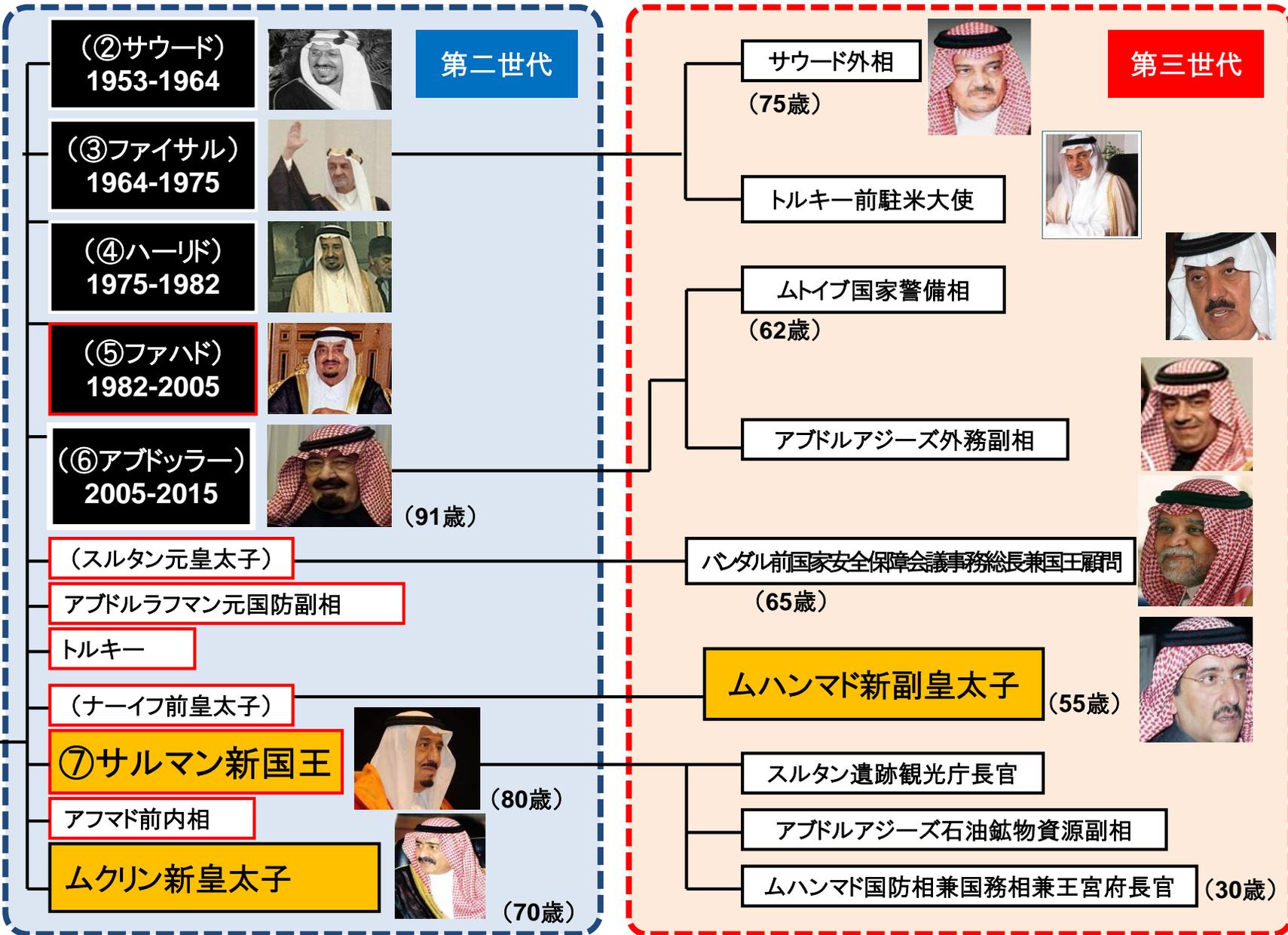
イラク政府による安定回復，シリア混乱の長期化，周辺国の負担増，
属州設置・忠誠表明，クルド問題の顕在化

サウード家の系図

【注】

- (人名)は故人。
- 主な人物のみ掲載。
- 黒地・白抜きは 歴代国王(丸数字は就任順、下段は在任期間)。
- 赤枠は所謂「ステイリー・セブン」(注)とされる有力王族。

(注:名家であるステイリー一家出身の母親から生まれた同腹の7人兄弟。)



サルマン新体制下のサウジアラビア

サルマン国王を頂点に、政権の構成メンバーを大幅に刷新。ただし、政策の基本路線は継続の見込み。

課題① 若年層対策

(雇用, 人材育成, 過激思想浸透, 等)

課題② 経済問題

(産業多角化, エネルギー, 原油高, 等)

課題③ 外交・安保問題

(ISIL, イラン, イエメン, シリア, 等)



サルマン国王

■ スディリ閣
■ 故アブドゥラー国王よりも保守的とされる



ムハンマド・ビン・ナーイフ副皇太子兼内相

■ 新設の政治・安保事項評議会議長を兼任
■ 治安分野の手腕に定評あり

スディリ第三世代



ムハンマド・ビン・サルマン国防相

■ 国王が寵愛する息子
■ 新設の経済・成長事項評議会議長を兼任
■ 行政手腕は未知数

第三世代のリーダー格として浮上。(サウード王家内でのスディリ閣の指導力が増大)

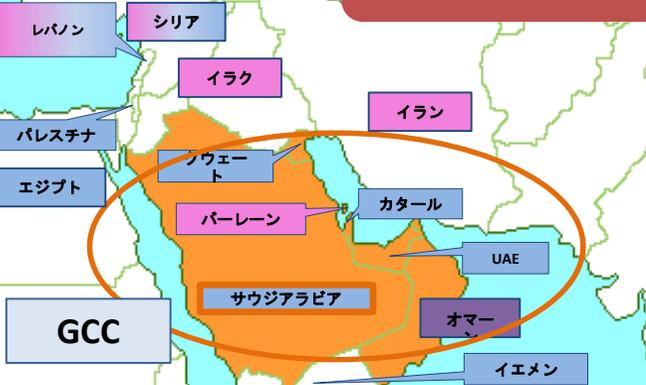
【人事が大幅に刷新】

- 故アブドゥラー国王の子息が複数解任。(有力者のムトイブ国家警備相は留任。)
- バンダルNSC事務局長解任。NSCは廃止
- ムクリン皇太子の影響力は限定的?
- 他のサルマン子息も今後昇進?

外交の司令塔は、新設の政治・安保事項評議会 (メンバーには外相と国防相を含む) 議長を兼ねるムハンマド・ビン・ナーイフ副皇太子が担っていくのか、今後要注視

新体制の外交 (見直し)

サウード外相は75歳 (写真左)。約40年外相を務めたが、体調問題もあり辞任意向との見方も。



■ : 国民の多数がスンニ派
■ : 国民の多数がシーア派

対米関係では連携強化の見込み

→副皇太子は米国と強い関係, シリア等地域問題での連携は強化か

イランとの伝統的覇権争いでは現実路線継続の見込み

→故国王と比べサルマン国王はイランに対立的との見方も
→他方, 新政権中枢は, 過度な対立を避けるとの見方もあり

イエメンやISILへの対応には引き続き苦慮が予想される

→イラク, イエメンとの長い国境線, ISIL 浸透の脅威への不安

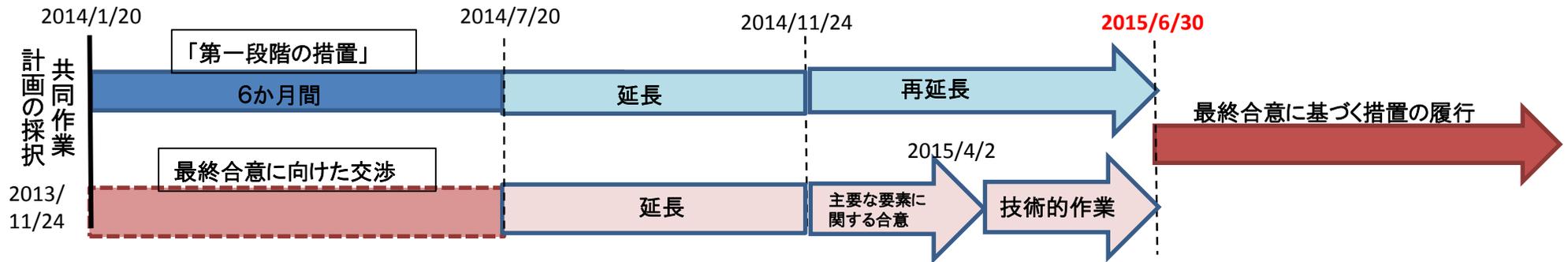
イランの核問題 (EU3+3とイランの最終合意に向けた交渉)

1. これまでの経緯

- 2002年: イランの秘密裏の核施設建設が発覚
- 2006年: 対イラン安保理決議採択 (以降, 計6本決議)
- 2009年: イランが20%濃縮活動開始
- 2012年: 欧米の対イラン制裁強化 (原油輸出削減等)

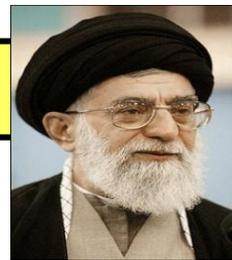
2. ローハニ政権以後の経緯

- 2013年 8月: ローハニ政権成立
- 2013年11月: ジュネーブ合意 (「第一段階の措置」は2014年1月に履行開始)
- 2014年 2月: 最終合意に向けEU3+3とイランの間で交渉開始
- 2014年 7月: 「第一段階の措置」と最終合意に向けた交渉を11月24日まで延長
- 2014年11月: 「第一段階の措置」と交渉を2015年6月末まで再延長
- 2015年 4月: 最終合意 (包括的共同作業計画) の土台となる主要な要素に合意



イラン統治機構図

直轄



ハメネイ最高指導者 (任期なし)

(75歳)

任命(6名)・罷免

選出・罷免

任命

公益評議会
(39名 任期5年)
ラフサンジャニ議長



(80歳)



憲法擁護評議会
(12名 任期6年)
ジャンナティ書記

(88歳)

法案審査

資格審査

専門家会議
(86名 任期8年)
ヤズディ議長

(83歳)



認証

資格審査
選挙結果確認

※承認
(6名)

※司法権長の推薦
に基づき承認

任命・罷免

<行政権>

ローハニ大統領
(任期4年) (66歳)
副大統領
閣僚
内務省(選挙の実施)



閣僚信任

<立法権>

国会
(290名 任期4年)
アリー・ラリジャニ議長
(56歳)



<司法権>

サーデグ・ラリジャニ
司法権長



任命 (55歳)

最高裁長官
検事総長

- ・革命防衛隊(民兵含む)
- ・正規軍
- ・治安維持軍(警察)
- ・国営放送
- ・革命諸団体

書記任命

国家安全保障最高評議会
ローハニ議長
シャムハーニ書記 (59歳)

国民による直接選挙により選出。
※年齢は2015年4月現在

1. 南北イエメン統一

＜北イエメン＞

1918年 オスマントルコ帝国から独立して、北部にシーア派系ザイド派指導者統治の王国建国

1962年 軍のクーデターにより共和制に移行

＜南イエメン＞

1967年 英国から独立

1969年 社会主義体制に転換

＜統一イエメン＞

1990年 サーレハ北イエメン大統領の下、資本主義の北と社会主義の南が、冷戦終結(ソ連消滅)を受けて統一。

2004年 サーレハ大統領が、ザイド派の政治・武装勢力であるホーシー派を攻撃(2010年に和平合意)

2. 「アラブの春」と政権移行プロセス

＜大統領の交代＞

2011年 2月以降、33年間統治したサーレハ大統領への抗議デモが拡大

11月、GCC、米国、国連の仲介でサーレハ大統領が退陣及び政権移行プロセスに同意

2012年 2月 ハーディ副大統領が信任投票で暫定大統領に就任

＜政権移行プロセス＞

2013年 3月 新憲法の骨格を協議する国民対話(ホーシー派も参画)を通じ、新憲法制定、新議会・新大統領選出へと動きが進められる

2014年 1月 国民対話終了。新憲法制定(→新大統領、新議会の選出)のプロセス開始

3. ホーシー派の勢力拡大

2014年 9月 南下したホーシー派が、首都サヌアを制圧

2015年 2月 ハーディ大統領が辞表を提出。南部のアデンへ移動、その後、辞表撤回

2015年 3月 ホーシー派がアデンに進出。サウジ等の軍事行動



1. ホーシー派による首都進攻と和平合意(2014年9月)

(1) ホーシー派のサヌア市制圧

- ◆ 昨年8月, 燃料値下げ及び政府退陣を要求するデモが頻発。
- ◆ 9月19日~21日にかけて, ホーシー派民兵がサヌア市内に進出し, 政府・軍関係施設等を一時占拠。政府軍の大多数及び治安部隊は同派の行動を黙認。

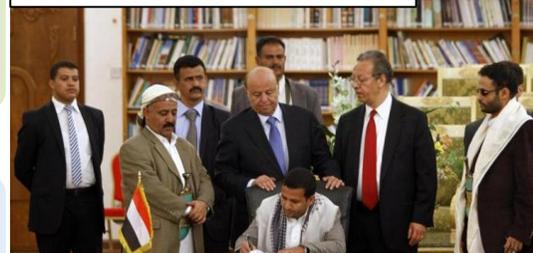
(2) 平和と国民的協調合意への署名

- ◆ 9月21日, 国連の仲介により, ホーシー派を含む13政党が和平合意署名。
- ◆ 和平合意に基づき, 11月にバハーハ新内閣成立。他方, ホーシー派は, 官庁, 軍・治安機関に民兵を送り込み, 政府に干渉。サヌア以南にも進出をはかる。

ホーシー派民兵のサヌア市進出



ホーシー派も和平合意に署名



大統領警護隊とホーシー派民兵が衝突



ホーシー派, 「憲法宣言」を公表



2. ホーシー派の全権掌握(2015年1月~2月)

(1) ハーディ大統領への攻撃

- ◆ 1月19日, ホーシー派民兵が大統領宮殿, 共和国宮殿(首相官邸), 大統領私邸を包囲。1月22日, ハーディ大統領及びバハーハ内閣が辞表を提出。(3月に大統領は辞表撤回。)
- ◆ 2月21日, ハーディ大統領がアデンに脱出。一部閣僚もアデンに移動。

(2) ホーシー派による「憲法宣言」の発表

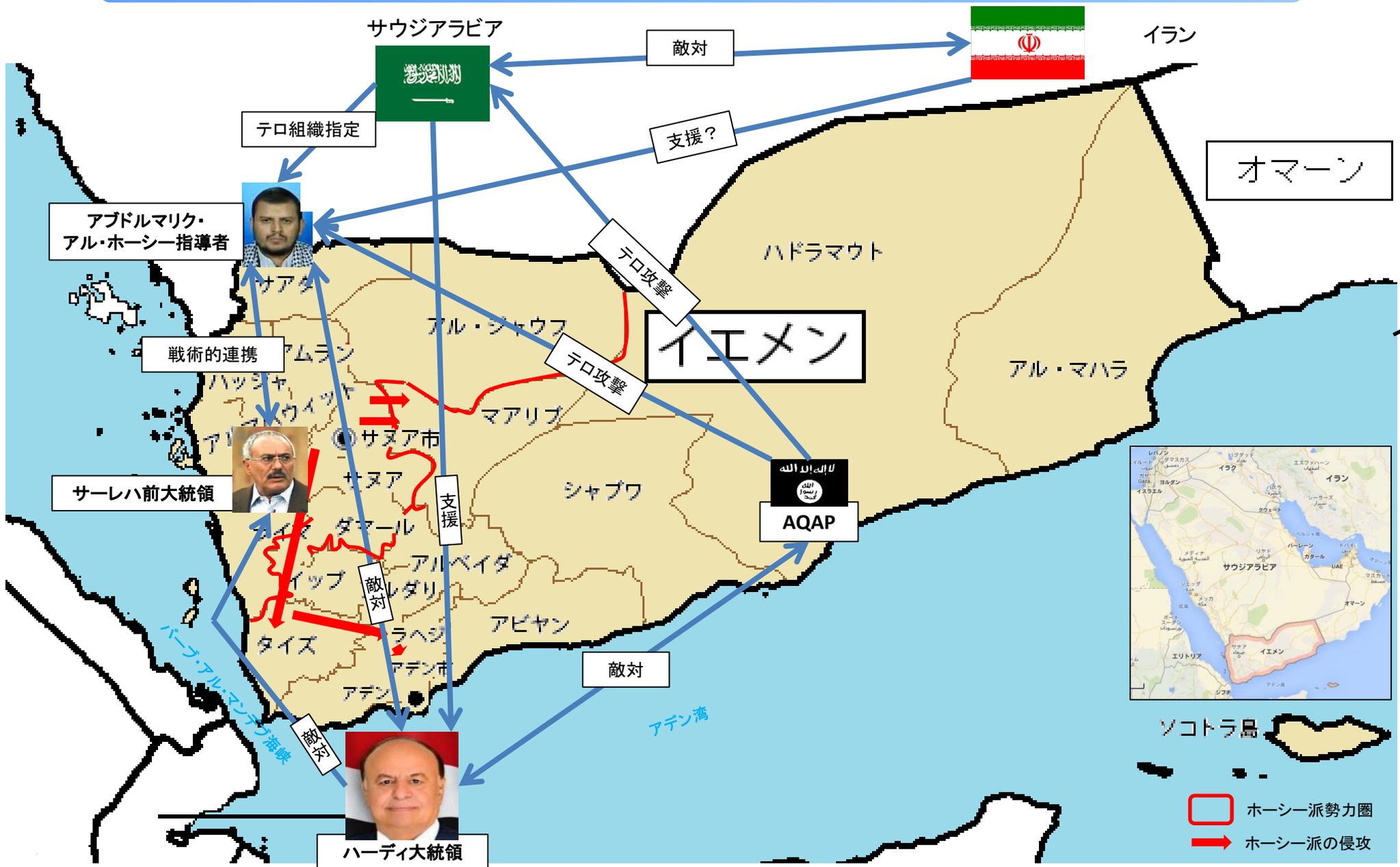
- ◆ 2月6日, ホーシー派が, 現国会を解散させ, 暫定国民評議会(立法府)及び大統領評議会(行政府)を設置する「憲法宣言」を公表。

3. 国内対立の激化(2015年3月~)

- ◆ 3月19日, アデンの大統領宮殿及びハーディ大統領私邸が空から攻撃される。
- ◆ 3月21日以降, ホーシー派民兵が, 南部に勢力圏を拡大。
- ◆ 3月23日, ハーディ大統領は, GCCに軍事介入を要請(3月26日軍事介入開始)。
- ◆ 3月25日, ホーシー派がアデン市内へ進出。ハーディ大統領派との市街戦が続く。
- ◆ 4月2日, AQAPが南部ムカッター市へ進出。16日までに刑務所, 政府軍基地, 空港を占拠。

(参考) 4月12日派は、アデンの大統領が、バハーハを首相を副大統領に任命。アダ県を根拠地とするシーア派系ザイド派教義を信奉する武装勢力。2004年以降6度にわたりサアダ県でホーシー派と政府軍が武力衝突。2011年の「アラブの春」の民衆蜂起の混乱に乗じて、サアダ県の支配権を掌握。政治部門と軍事部門からなり、政治部門は2011年以降の政権移行プロセスに関与していたが、昨年、同胞団系イスラーハ党民兵との衝突を繰り返し、勢力圏を拡大。

イエメン各勢力・諸外国の相関関係



ISILをめぐる情勢

ISIL沿革

2000年頃

「タウヒード(神の唯一性)とジハード団」

アブームスアブ・ザルカーウィ(ヨルダン人)が結成。

2004年10月

「二大河の国のアル・カーイダ聖戦機構」

ザルカーウィ, オサマ・ビン・ラーディンに忠誠を誓って組織名を改名。

2006年6月

ザルカーウィ, 米軍の攻撃で殺害。

2006年10月

「イラク・イスラム国」

ザルカーウィの流れをくむアブーオマル・バグダーディが結成。2010年4月, 同人は米軍により殺害。

2013年4月

「イラクとレバントのイスラム国」

アブーバクル・バグダーディ, シリアで反政府武装闘争に従事していたヌスラ戦線との合併を発表。アルカイダによる「破門宣言」(2014年2月)。

2014年6月

「イスラム国」

アブーバクル・バグダーディ, カリフに就任。

イラクでのできごと

2003年7月 統治評議会発足

2003年8月 国連イラク本部爆破

2006年4月 マーリキー政権発足

2006年2月 アスカリ廟爆破テロ

2008年3月 サドル派民兵掃討

2010年11月 第二次マーリキー政権発足

2011年12月 米軍がイラクから撤退

2014年9月 アバーディ政権発足

宗派対立激化

マーリキー独裁化



ISILの旗

「アッラーの他に神はなく、ムハンマドは神の預言者なり」とアラビア語で書かれている



指導者バグダーディ

シリアでのできごと

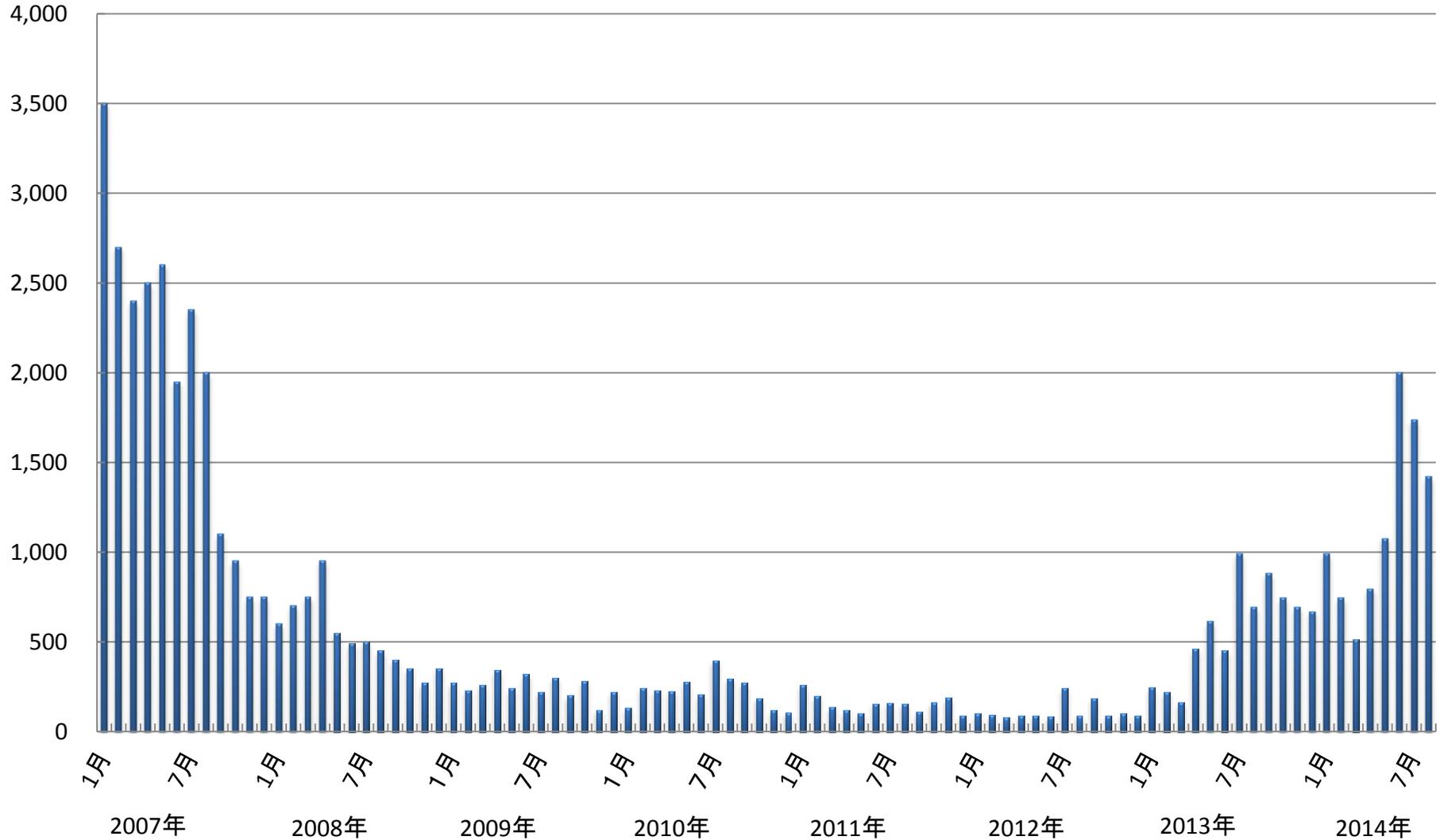
2011年3月 ダラアでの反政府デモ

2011年半ば 全国主要都市に反政府デモ拡大

2014年6月 アサド大統領三選

イラク国内情勢

治安情勢：イラク市民死者数の推移（2007年1月～2014年9月）



出典：イラク・インデックス及びイラク治安当局発表

ISILによる「統治」の事例



ISILニナワ支部による
道路補修工事。



ISILニナワ支部による必
需品配給所。世帯登録が
必要。配給の袋には「イス
ラム国」と印刷されている。



「イスラム警察」の車両。I
SILのマークと「イスラム
警察・ニナワ県」との表記
あり。



ラマダン(断食月)期間
中にはISILが住民にイ
フタル(晚餐)を振る
舞う機会も。



ISILにより修復された橋。



ISILによる医療サービスの一例。

- ISILは、支配地域の一部において徴税、水・電気・必需品の供給、清掃・医療等の社会福祉サービスの提供、警察サービス等を実施していると見られる。

- 空爆の限界
- ISILの脆弱性(統治のコスト)
 - 封じ込め(国境管理の厳格化)
 - 収入源への根本的打撃
- 「土壌改良」(例:ガバナンスの改善, 紛争解決)

● 「弱体化, 破壊」が成功したとしても, 「肥沃な土壌」が現れると息を吹き返す。(例:イラクで弱体化後, シリア危機で復活)